

KLIS TODAY

No.
10

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

学類の完成年度を迎えて

松本 紳

この4月に溝上学類長の後を継ぎました松本です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年は109名の新1年生と18名の3年次編入生を迎え、新年度がスタートいたしました。桜満開の中、入学式、オリエンテーションが執り行われ、4月9日にはバス研修旅行で、新入生が水戸の県立歴史館と東海村の日本原子力機構図書館を見学してきました。バスの中では、先輩らの話もあり、緊張気味だった新入生も打ち解けたのではないかと思います。入学後、約2カ月がたちましたが、新入生のみなさんは、元気に大学生活を送っています。

さて、知識情報・図書館学類が発足して4年目になりました。1期生も4年生として卒業研究に着手することになり、今年度はカリキュラムの完成年度となります。本学類の特色として、キャリア支援、国際化、社会連携などがあげられますが、それらの一環として、国際インターンシップを行いました。本号に詳しい記事がありますので、ぜひ、ご一読くださいますようお願いいたします。

これからも特色ある教育を実践し、社会に貢献できる優秀な学生を世に送り出していきたいと考えておりますので、引き続きご支援のほど、どうかよろしくお願い申し上げます。

(まつもと・まこと 知識情報・図書館学類長)



国際インターンシップ：視野を広げるために

呑海 沙織

「図書館のサービスは無料」、「図書館は静かに本を読むところ」、「図書館での飲食は禁止」、「図書館の蔵書は請求記号順に配架」・・・みなさんが考える図書館に関する常識はどのようなものでしょう。

昨年度より国際インターンシップが始まり、ハワイと上海の図書館で、それぞれ3名の3年生がインターンシップを経験しました。ハワイではハワイ大学マノア校ハミルトン図書館とハワイ州立図書館を中心に、上海では上海図書館を中心に研修を行いました。受講生は、さまざまな図書館の見学、図書館で働く人々との交流、レファレンス・カウンターでのオブザベーションなどを通じて、いくつもの常識が覆されたことと思います。



ハワイ大学ハミルトン図書館にて（左：筆者）

国際インターンシップは、広い視野を身につけ、コミュニケーション力を高めることをめざしています。常識を覆されたときが、視野を広げるチャンスです。常識が覆される心地よさを、学生時代にたくさん経験してください。そして、その機会のひとつとして、今後も国際インターンシップを継続できればと願っています。

（どんかい・さおり 知識情報・図書館学類 助教）

上海での国際インターンシップを終えて

有元 よしの

3月21日から8日間、上海図書館でインターンシップを行ってきました。上海図書館は5,000万冊の資料を有し、1日に3,000人の利用者が訪れる中国でも最大規模の図書館です。資料購入費はすべて上海市一市のみが負担しているにもかかわらず、中国全土で出版されたすべての資料を購入していました。

インターンシップでは、上海図書館だけでなく、大学図書館や日本でいうところの市立規模の図書館、少年児童図書館という14歳以下を対象とする図書館を見学しました。1日目は上海図書館の概要の説明と蔵書楼（近代図書館成立以前の有力者の個人書庫・文庫。訪問した上海図書館徐家匯蔵書楼は元来カトリック教会の蔵書楼）の見学、2日目～3日目の午前は上海図書館の各部署を見学し、その後日本の図書館事情について英語でプレゼンテーションをしました。質問を合わせて1時間という短い時間でしたが、職員の方と活発に議論をすることができました。



インターンシップでは、プレゼンテーションのときだけではなく、一緒に食事をさせて頂いたときや、他の図書館を見学する際など、職員の方とお話する機会が多くありました。その中で以下のように中国の図書館が現在抱えている問題や、職員の方の考えを聞くことができ、非常に勉強になりました。

中国の図書館で一番驚いたことは、図書館の1階に書店が入っていること、一定規模以上の図書館において保存のために複本が揃えられていたことです。中国の図書館では利用と保管を共に重視しているのだと感じました。



上海図書館 蔵書楼の貴重書庫

日本と同じだと思ったのは、図書館の使われ方です。職員の方は、図書館がどんなに優れたサービスや資料を提供していても、それに対するニーズがほとんどないと仰っていました。この話を聞いて、図書館予算の削減されていく日本の現状の中で、図書館の存在意義をどう見出していくかについて、考えさせられました。

「海外を知って初めて、自国のことを深く知ることができる」と呑海先生が仰っていましたが、国際インターンシップを通して、日本の図書館に対する見方や考え方が変わり、もっと積極的に図書館に関わっていこうと思いました。また、普段と違った環境に身を置くということは、自身の成長にもつながったと思います。勇気を出して参加して本当に良かったです。

（ありもと・よしの 知識情報・図書館学類4年次）

春日ラーニングcommons 三年目がスタート

逸村 裕



学生スタッフと談笑する筆者



新入生に説明する学生スタッフ

4月、春日ラーニングcommons(KLC: Kasuga Learning Commons)が図書館情報学図書館の旧ブラウジングコーナーに移転し、新たなスタートを切りました。4月8日に開所記念のテープカットが行われ、その模様は学生有志によって、インターネット動画実況中継が行われました。

筑波大学春日エリアにラーニングcommonsが誕生したのは2008年4月です。春日ラーニングcommonsも当初は図書館ではなく、教室を使用する形でスタートしました。

新KLCは面積的には広くありませんが、端末9台を置き、平日午後3時から7時にかけて学生チュータとボランティアが常駐しています。これまでと違い、毎日同じ時間帯に彼ら学生スタッフがいます。

ラーニングcommonsとは印刷体/電子体にかかわらず多くの情報資源にアクセスでき、学生が主体的な学習を行う環境です。1990年代に欧米でその考え方が始まり、

この数年日本においても実装が行われ始め、情報資源への効率的なアクセスの観点からも図書館との連携を意識したものが主流となっています。

図書館の一角に設置されたこともあり、図書館入館者数は前年比30%上昇となっています。図書館とラーニングcommonsとで、相乗効果的に双方の利用が促進されることが期待されます。今後は図書館との協力、授業と連携した活動、学生を主体とした内外でのコミュニティ作りに臨む予定です。日本の図書館情報学の中核を担う本学類において、図書館の中にラーニングcommonsが置かれ、学生主体の運営がなされることはモデルケースとして注目を集めることと考えられます。

学生によるブログ <http://tsukubalc.blog6.fc2.com/blog-entry-6.html> も公開されていますので、ご覧ください。

(いつむら・ひろし 知識情報・図書館学類 教授)